

あなたが死後火の池に投げ込まれないためのアドバイス:



死後、多くの人が火の池に投げ込まれる

<聖書は死後多くの人が火の池に投げ込まれることを語りま
す>

黙示録 20:12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行ないに応じてさばかれた。

20:13 海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行ないに応じてさばかれた。

20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

マタイ7:13 狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからは行って行く者が多いのです。

<聖書は全ての人の人生に定められている2つのことに関して述べます>

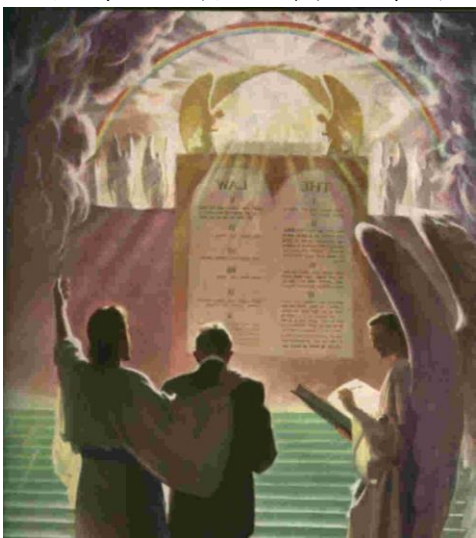
以下の様に書かれています。

ヘブル9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている

このことばのように、聖書は全ての人に2つのことが定まっていることを述べます。

1. 一つは誰でも必ず死を迎えることです。富豪でも貧乏でも、政治家でも学校の先生でも誰でも必ず例外なく人生で一度死を経験します。これは誰でも知っていることです。

2 さらに聖書は死後誰でも必ずさばきを受ける、すなわち、裁判を受けるようになることを述べます。これにも誰一人例外はありません。その裁判により、私たちが生きていたときに行った、全ての罪、すなわち嘘やら、姦淫やら人を傷つけることばやら、悪い行いに関して、神の前に判定が下り、罰が下ります。



死後の裁判の座

<さばき(裁判)の結果、ある人は永遠の命を得て天国に入る、ある人は火の池に投げ込まれる>

さばきの結果、すべての人の運命は2つに分かれます。すなわち、ある人は永遠の命を得て、天国へ入ります。そうでない人は例外なく火の池に投げ込まれます。

黙示録20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

<神の救いの手>

このように死後多くの人が火の池に入る可能性があります。しかし、神はそのことを手をこまねいて傍観しておられるわけではなく、逆に私たちのために救いの道を用意しておられます。以下のキリストのことばを見てください。

ヨハネ5:24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。

ここに書かれているように、キリストのことばを聞いて神を信じる人はさばきに会うことがなく、火の池に入ることもないことが約束されています。

<キリストを通して救われるという特殊な方法>

私たちが、死後の滅びや火の池に入ることから免れるために、神が用意した方法は、私たちの常識や方法とだいぶ異なります。それは、神の大事なひとり子であるイエスキリストが、我々の罪を負って十字架にかかる、という方法です。以下のことばの通りです。

1ペテロ2:24 そして自分から**十字架**の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。



キリストのことばを信じるものは死後の火の池の罰から免れる

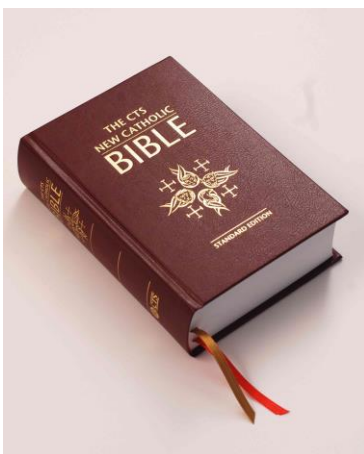
<聖書の信頼性>

さて、このように私たちは聖書に基づき、死後のことを語りますが、ところで聖書とは信頼に値する本なのでしょうか？昔の人が信じた非科学的な本ではないので

しょうか？それに関して聖書はこう語ります。

2テモテ3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

聖書とは普通の本ではなく、神によって靈感された書物、すなわち、この地上で唯一いわば神が著者である、ということのできる特別な本なのです。そして調べてみるなら、確かに聖書は他の人が書いた本と異なり、神によって書かれた、と思わざるを得ない、不思議な特徴に満ちています。



聖書

＜聖書の歴史的記述は全て実際に起きたこと＞

聖書に記載されている歴史的な記述はみな、実際に起きたことであることが考古学的に証明されています。以前は本当に歴史に起きたことなのかどうか、疑問に思う人もいたのですが、19世紀以降考古学が発達するにつれ、聖書に記された町や都市がどれも実際に実在していたことが証明されています。

＜聖書の記述は科学と矛盾していない＞

聖書の記述は科学と矛盾していません。というより、科学が発達して、始めて聖書の記述に追いついた、ということが多いのです。たとえば、今から3000年以上前に記されたヨブ記には、以下の様に地球が何もない宇宙の中に浮いていることが記されています。

ヨブ記26:7 神は北を虚空に張り、地を何もない上に掛けられる。

このようなことは人間の科学では近代に天文学が発達するまでわからなかったことなのです。しかし、聖書はこのことをこともなげに記載しています。



地球は何もないところに浮いている

＜聖書の預言は全て成就している＞

聖書の驚くべきこと、人知を超えていることはその預言に関することです。聖書には数千の預言が書かれていますが、外れてしまった預言は一つもありません。これは、未来をも過去をも見通す方、神による以外ありえないことです。たとえば、キリストの生涯に関してキリスト生誕の数百年以上前に書かれた預言が300以上あります。そして、イエスキリストの生涯の中でその預言はみな成就しました。たとえば、その誕生の場所に関しては、「ベツレヘム、エフラテ」としてその地名が700年も前に預言されていました。そしてキリストはまさにそのベツレヘムの地で生誕しました。

また、「その友に裏切られる」ことも前もって預言されていました。そしてその預言どおり、キリストはユダに裏切られ、死に渡されました。繰り返しますが、未来を預言し、しかも正確に成就することなど、人間には全く不可能です。世界を支配し、歴史を支配する神にしか可能なことではありません。



キリストは聖書の預言どおりベツレヘムで誕生した

<進化論はエセ科学>

人間の誕生や、死後のことに関して私たちが学校で教わった答えは、進化論です。そして、進化論の基本は人間は偶然にできたもの、という考えです。しかし、よく調べてみればわかることですが、進化論は科学の衣をまとった荒唐無稽なエセ科学です。進化論のいうように偶然から人間のような高等な生き物ができるはずはありません。少し常識を用いて考えれば、わかることです。簡単な品物、たとえば、割り箸の様な単純な構造の品物でも決して偶然にはできません。人が意図して作成しなければできないのです。まして、割り箸なんかより、数段複雑な人の頭脳や、目や耳が偶然にできるはずはありません。聖書のいうとおり、神が人を創造したとの教えが正しいのです。ですから、人が死後どういう運命をたどるか、という質問に関しては荒唐無稽なエセ科学、進化論のいう、偶然だとか、無になるなどという答えが正しいのではなく、聖書の語ることばが正しいのです。このことばに耳を傾けましょう。



人間が偶然にできた、とする進化論はエセ科学

<神を否定した人生は祝福を得ません>

私たちが人を創造した神を否定し、無視して歩むという選択を選ぶことは可能です。何故なら、人には自由意志があり、よい道でも悪い道でも選ぶ権利があるからです。しかし、神を否定した歩みは神の怒りをかう人生であり、その先には滅びや災いや死後の火の池しか待っていないことも事実です。こう書かれています。

ロマ書1:18 というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、**神の怒りが天から啓示されているから**です。

1:19 なぜなら、神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。

1:20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。

1:21 というのは、彼らは、神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。

ヨハネ3:36 御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることがなく、**神の怒りがその上にとどまる。**



神を否定し、偽りを選ぶ人へ神の怒りが啓示されている

<時は限られている>

どのようなことがらに関しても、定められた時、タイムリミットがあることを知りましょう。あの学校に入りたいと思っても募集期間が終わってからでは無理です。神は、私たちが死後滅びに入らないため、必要な道を備えておられますが、しかし、それにもタイムリミットがあることを知りましょう。以下のことばを見てください。

マタイ5:25 あなたを告訴する者とは、あなたが彼といっしょに途中にある間に早く仲良くなりなさい。そうでないと、告訴する者は、あなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡して、あなたはついに牢に入れられることとなります。

5:26 まことに、あなたに告げます。あなたは最後の一コドラントを支払うまでは、そこから出ては来られません。

ここでは私たちがもし、訴えられているなら、彼とまだ道の途中にある間に和解すべきことが書かれています。このことはたとえであり、いわんとしていることは、私たちがまだ人生の途上にあり、死後の裁き(裁判)の時を迎える前に神と和解し、火の池に入らない道を選択すべきことが書かれています。

死後の裁判の席についてからではもう遅すぎるのです。その時には、私たちは自分の人生の間に犯したあらゆる罪を自分で負い、全ての罰を牢、すなわち火の池で払うようになることが描かれています。ものごとには時があり、遅すぎるならもう間に合わないのです。

<死後のことに関して少し一緒に考えてみませんか？>

学校ではあらゆることを教えてくれるはずなのですが、悲しいかな私たちはもっとも大事なことに何もしないままです。人はどうやってこの世に来たのか、そして死後どこへ行くのか...もっとも大事な疑問、根本的な、質問に関して私たちは何も学んでいないのです。私たちは、聖書にこそ、これらの質問に関して答えがある、と思っています。もしよければ、以下の集会に出席してみませんか。そして一緒に聖書からの答えを見てみましょう。

聖書の学び会：「聖書の語る終活」

場所：府中市 ルミエール第4会議室

日時：毎週土曜日 午後3時～4時

会費：無料です。テキストはこちらで用意します。

主催：レムナントキリスト教会：

府中市にあるプロテスタントのキリスト教会です。(輸血拒否のものみの塔などとは無関係です)tel 042-306-5002 どなたでも歓迎です。

一回だけの参加も歓迎！



一緒に聖書を学びませんか？

